

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果（今後の対応）

（別紙3）

学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果(経過)	対応
社福専攻	R5.前期	ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習の実習期間の延長に伴い、事前事後の指導と実習との連動や各実習の適切な期間設定が難しくなった。	実習施設や機関との調整が必要	新年度に向けた実習指導体制を話し合う1月の合同実習委員会にて話し合いを始める。	新しく、実習生が自己評価し、実習指導者、指導教員が実習教育の進捗状況を把握できる実習評価表を開発し実習教育の充実に努めた	○
一般教育	R6.後期	・データサイエンス入門 ・情報の活用 ・情報・メディアの法と倫理	政府の戦略・政策を踏まえて、具体的に数理・データサイエンス・AIの教育内容をどのように本学における教育課程に位置づけていくか。		R7年度の学科会議にて検討していく	数理・データサイエンス・AIの教育内容を既存科目の枠内で学修できるよう、授業内容を調整した。	○
一般教育	R6.後期	・人間の心理 ・生活と法 ・言語と表現	履修者数の確保と、将来的な非常勤講師への委嘱のしやすさを確保するため、学科・専攻により開講時期が異なる科目(「人間の心理」「生活と法」「言語と表現」)の開講時期を検討する。	・担当教員(非常勤講師)、各学科との調整が必要 ・教務委員会等での検討や調整が必要	R7年度以降、学科会議で検討及び担当教員や各学科と調整を行い、調整できた科目については教授会に諮る。	「生活と法」「言語と表現」について、それぞれ全学科・専攻を対象に同時開講できるように調整した。	△
介護専攻	R6.後期	介護レクリエーションⅢ	・受講者数が少なく学習効果が低いため、事前に受講者数を調整する等の対応が求められる。	—	令和7年度介護実習教育検討会で検討する。	科目の魅力を高めて学生の履修促進を図るために、介護レクリエーションⅠ～Ⅳの改変を検討した。教授会(1月22日)を経て、教育研究審議会(1月29日)で承認された。	○
一般教育	R7.後期	体育実技	現在、社会福祉専攻とこども学科を一つのクラスとして開講しているが、受講者数が多い。一方、介護福祉専攻のクラスでは受講者数が少ない。受講者数のバランス改善を図るため、社会福祉専攻と介護福祉専攻を一つのクラスとして開講することを検討する。	・担当教員、社会福祉学科・こども学科との調整が必要 ・教務委員会等での検討や調整が必要	R8年度、学科会議において検討を行い、担当教員および各学科と調整の上、教務委員会に付議する。		
社福専攻	R7.後期	実習科目	実習事前・事後指導における到達目標および指導内容を明確化し、共通の指導ガイドラインを整備し、教員間の共通理解を形成する。	—	令和8年度の合同実習委員会にて検討する。		
社福専攻	R7.後期	保育者論	こども学科と共有している科目(保育者論)については、開講時期の見直しを行い、履修学年および実習時期との整合性を踏まえた適切な配置とする必要がある。	こども学科	令和8年度の社会福祉専攻教育検討会にて検討し、こども学科と調整を図ったうえで教務委員会に付議する。		
介護専攻	R7.後期	介護レクリエーションⅠ～Ⅳ(改変後は、介護レクリエーションA、B)	レクリエーション科目の再編により、令和8年度入学生から開始する「介護レクリエーションA」及び「同B」にDPをどのように設定するか検討の必要がある。	—	令和7年度介護実習教育検討会(3月予定)で検討する。		
介護専攻	R7.後期	介護実習指導Ⅱ	介護総合演習の中に位置づけられ、実習指導以外の内容も含むことから、科目名称と内容に齟齬がある。科目名称の変更を検討する必要がある。	—	令和8年度介護実習教育検討会で検討する。		

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果（今後の対応）

(別紙3)

学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果(経過)	対応
こども学科	R7.後期	資格免許における選択／選択必修科目	・受講者数が少なく、ゼロの科目もあるため、科目の位置づけや開講時期の適切性、教育課程の過密化の現状と課題などについて、検証を進めていく必要がある。	全学科、ご担当の先生など	令和8年度より、履修者の状況確認や学生への聞き取りなどにより、課題の把握に務める。現在、国で検討中のカリキュラム改正の時期と合わせ、教育課程を適切に見直すことができるよう、準備を進める。		

○対応完了    △一部対応済    ●対応中    ×対応不可能    - 未対応    空欄は新規追加分